

全体版の概要 埼玉県四半期経営動向調査(平成21年10~12月期)

I 調査結果の総括

1 県内中小企業の経営動向

総括

県内中小企業の経営状況は、持ち直しの動きが弱まり、厳しい状況が続いている。今後については、悪化が懸念される。

2 県内中小企業の経営者からみた経営動向

(1) アンケート調査結果から

- 経営者の景況感／景況感DIは▲90.4で、前期比3.0ポイント低下。3期ぶりに悪化した。
- 今後の景気見通し／「良い方向に向かう」は減少し、「悪い方向に向かう」は増加した。
- 売上げDI／3期連続で改善。来期は悪化する見通し。
- 資金繰りDI／3期連続で改善。来期は悪化する見通し。
- 採算DI／3期ぶりに悪化。来期も悪化する見通し。
- 設備投資／実施率は3期ぶりに低下。来期も低下する見通し。

(2) ヒアリング調査結果から

- 経営者の景況感
 - 【製造業】 厳しいながらも持ち直している。
 - 【小売業】 悪化している。
 - 【情報サービス業】 悪化が止まりつつある。
 - 【建設業】 悪化が続き、厳しい状況となっている。

3 特別調査事項「取引先金融機関の貸出姿勢について」

特別調査事項として、取引先金融機関の貸出姿勢について、県内中小企業に聞いたところ、次のような結果となった。

- 1年前と比べた現在の取引先金融機関の貸出態度は、「厳しくなった」が20.3%で、前年に比べ7.4ポイント減少した。「厳しくなった」は平成18年以降増え続けていたが、4年ぶりに前年より減少した。
- 貸出態度が厳しくなった理由は、「新規貸出の拒否」(50.9%)が最も多く、次いで「担保・保証条件の厳格化」(39.1%)、「金利引き上げ」(27.6%)、「融資申込額の減少」(27.6%)となっている。

- 貸出態度が厳しくなったことへの対応は、「賃金・賞与の抑制」（４８．８％）が最も多く、次いで「預貯金の取り崩し」（４８．４％）となっている。

Ⅱ 調査要領

1 調査の対象

県内中小企業

2 調査の方法

(1)書面によるアンケート調査 (2)業界団体及び個別企業への訪問ヒアリング

3 調査対象期間

平成21年10～12月(調査時期:平成21年12月)

4 調査対象業種及び回答数

① アンケート調査・・・景況感など、特別調査事項

- ・ 製造業： 880企業中、回答数 614 (回答率69.8%)
- ・ 非製造業： 1,320企業中、回答数 890 (回答率67.4%)
- 計： 2,200企業中、回答数 1,504 (回答率68.4%)

※製造業（11業種）：食料品、繊維工業、家具・装備品、パルプ・紙・紙加工品、印刷業、プラスチック製品、鉄鋼業・非鉄金属、金属製品、電気機械器具、輸送用機械器具、一般機械器具

※非製造業（7業種）：建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、運輸業、不動産業、サービス業

②ヒアリング調査

- ・ 製造業： 21企業・組合
- ・ 小売業： 8企業・商店街
- ・ 情報サービス業： 3企業
- ・ 建設業： 3企業
- 計： 35企業等

5 実施機関

埼玉県産業労働部産業労働政策課及び埼玉県企画財政部地域振興センター

Ⅲ 調査結果概要

1 アンケート調査結果の概況

1 経営者の景況感と今後の景気見通し

景況感DIは▲90.4で3期ぶりに悪化し、来期も厳しい状況が続く見通し。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに悪化した。

〈景況感DI：前期→当期（前年同期）〉

- ・全体：▲87.4 → ▲90.4（▲88.7）
- ・製造業：▲87.8 → ▲90.8（▲89.8）
- ・非製造業：▲87.0 → ▲90.1（▲87.8）

〈「良い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：3.5% → 2.0%
- ・製造業：5.1% → 2.8%
- ・非製造業：2.3% → 1.5%

〈「悪い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：39.7% → 56.9%
- ・製造業：30.9% → 48.8%
- ・非製造業：46.6% → 62.5%

2 売上げについて

売上げDIは▲35.2で3期連続で改善。来期は悪化する見通し。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期連続で改善した。
来期については、製造業、非製造業ともに、当期の売上げDIを下回る見通しである。

〈売上げDI：前期→当期（前年同期）→来期〉

- ・全体：▲40.0 → ▲35.2（▲48.2）→ ▲50.4
- ・製造業：▲32.6 → ▲22.5（▲51.6）→ ▲43.5
- ・非製造業：▲45.8 → ▲44.0（▲45.5）→ ▲55.3

3 資金繰りについて

資金繰りDIは▲42.6で3期連続で改善。来期は悪化する見通し。
業種別にみると、製造業は3期連続で改善したが、非製造業は3期ぶりに悪化した。
来期については、製造業、非製造業ともに、当期の資金繰りDIを下回る見通しである。

〈資金繰りDI：前期→当期（前年同期）→来期〉

- ・全体：▲43.2 → ▲42.6（▲51.2）→ ▲48.6
- ・製造業：▲42.5 → ▲37.3（▲52.5）→ ▲45.4
- ・非製造業：▲43.7 → ▲46.2（▲50.2）→ ▲50.8

4 採算について

採算DIは▲52.6で3期ぶりに悪化。来期も悪化する見通し。
業種別にみると、製造業は3期連続で改善したが、非製造業は3期ぶりに悪化した。

来期については、製造業は当期の採算D Iを下回るが、非製造業は横ばいの見通しである。

〈採算D I：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲51.4 → ▲52.6（▲63.6） → ▲54.4
- ・製造業：▲48.3 → ▲45.6（▲66.2） → ▲50.3
- ・非製造業：▲53.7 → ▲57.4（▲61.5） → ▲57.3

5 設備投資の動向について

実施率は15.1%で3期ぶりに低下。来期も低下する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに低下した。

来期についても、製造業、非製造業ともに低下する見通しである。

〈設備投資実施率：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：16.6% → 15.1%（17.0%） → 10.9%
- ・製造業：20.2% → 17.4%（19.3%） → 12.2%
- ・非製造業：13.8% → 13.6%（15.1%） → 9.9%

2 ヒアリング調査結果の概況

1 景況感

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 製造業 | 厳しいながらも持ち直している |
| (2) 小売業 | 悪化している |
| (3) 情報サービス業 | 悪化が止まりつつある |
| (4) 建設業 | 悪化が続き、厳しい状況となっている |

2 企業の声

「夏場よりも良くなっており、不況と普通の間ぐらいである」（電気機械）

「物販のみならず、今まで比較的良かった飲食なども急激に悪くなってきた」（商店街）

「秋以降、食料品の売上げが落ちており、

今までよりもワンランク下げた物を購入する傾向が強い」（百貨店）

「仕事は増えつつあるが、景気の二番底が懸念され、先行きについては楽観視できない」

（銑鉄铸件）

「今のような状況が続くと耐えきれない企業が増加する」（建設業）

3 特別調査事項結果の概況 「取引先金融機関の貸出姿勢について」

(1) 1年前と比べた、取引先金融機関の貸出態度

「ほとんど変わらない」	75.1%
「厳しくなった」	20.3%
「緩やかになった」	4.6%

(2) 貸出態度が厳しくなった理由（複数回答）【(1)で「厳しくなった」と回答した企業】

「新規貸出の拒否」	50.9%
「担保・保証条件の厳格化」	39.1%
「金利引き上げ」	27.6%
「融資申込額の減額」	27.6%
「審査期間の長期化」	21.5%
「繰上返済の要求」	5.0%
「その他」	5.7%

(3) 貸出態度が厳しくなったことへの対応（複数回答）

【(1)で「厳しくなった」と回答した企業】

「賃金・賞与の抑制」	48.8%
「預貯金の取り崩し」	48.4%
「合理化によるコスト削減」	31.7%
「従業員の削減」	29.5%
「設備投資の抑制」	25.6%
「事業の整理・縮小」	21.4%
「他の金融機関への借換」	17.4%
「その他」	7.1%
「特になし」	4.6%

(4) 貸出態度が緩やかになった理由（複数回答）【(1)で「緩やかになった」と回答した企業】

「新規貸出の積極化」	75.0%
「金利引き下げ」	45.0%
「担保・保証条件の緩和」	20.0%
「審査期間の短縮」	16.7%
「返済条件の緩和」	10.0%
「その他」	1.7%

[このページに関するお問い合わせ先]

産業労働部産業労働政策課 長期戦略・企画調査担当 Tel:048-830-3723 Fax:048-830-4818 E-mail:a3710@pref.saitama.lg.jp

